

沖縄県、盛龍也

秋田県開催のジャパンクラシックマスターズでの

沖縄県代表選手の大会

会結果が写真入りで大きく報道されました。試合ごとに、新聞社に訪問して、大会結果を報告される沖縄県協会の役員の方々の努力の賜物だと思います。いつも、情報を提供下さる盛さんに感謝です。ありがとうございます。

小田川がV 世界切符

パワーリフティング・マスターズ

50〜59歳 93キ級

パワーリフティングの第21回ジャパンクラシックマスターズ選手権が9月18日に秋田県であり、50〜59歳93キ級で小田川洋司(51)が優勝し、来年の世界マスターズの出場権を得た。7日、沖縄タイムス社を訪



(前列左から) 優勝した小田川洋司、比屋定英信・県協会副会長、5位の野原祥孝(70)沖縄タイムス社

れ「50歳を超え、新たな目標として12年ぶりに大会に出た。世界大会に向けて筋力を強化し、ベスト3を狙いたい」と意気込んだ。

70〜79歳66キ級の野原祥孝(70)はパワースポーツはトータル315キで5位となり、「スクワットの座りが浅く失敗した。次は一つ階級を落として上位を狙いたい」と話した。

ほかに60〜69歳59キ級の金城幸雄(同)が優勝、40〜49歳93キ級の宮下聡記(Mozukimu)が2位に入った。都道府県対抗で沖縄は7位だった。

小田川、金城V

パワーリフティング・マスターズ

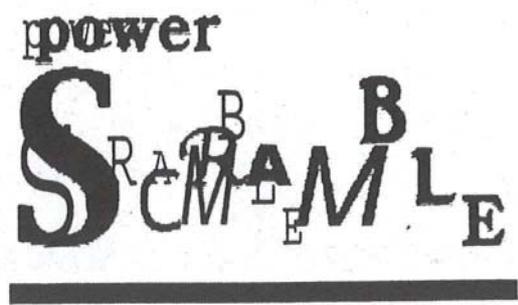
パワーリフティングの第21回ジャパンクラシックマスターズ選手権大会(秋田県男鹿市、9月17、18)で、県代表で出場した93キ級M2(50〜59歳)の小田川洋司(オタガワフィットネスプロ)と59キ級M3(60〜69歳)の金城幸雄(パワースポーツ)が頂点に立った。93キ級M2で宮下聡記(Mozukimu)が2位、66キ級M4(70〜79歳)の野原祥孝(パワー

スポーツ)は5位に入賞した。都道府県対抗団体戦では沖縄は7位に入った。

7日、小田川、野原と県パワーリフティング協会の比屋定英信副会長、系列真一副理事長、藤田万事務局長が琉球新報社を訪れ、入賞報告した。12年間競技から遠ざかっていたが、50歳になって「新たな目標にしたい」と初のマスターズに出場し優勝した小田川は「記録を伸ばすことで県内のパワーリフティングを盛り上げたい」と意欲を語った。来年6月の世界大会(ベラルーシ)出場を決め、「出るからには表彰台を目指したい」と向上を誓った。

▽男子59キ級M3(60〜69歳)
①金城幸雄トータル360キスクワット120キベンチプレス90キデッドリフト150キ
▽同66キ級M4(70〜79歳)
⑤野原祥孝315(100、80、35)
▽同93キ級M1(40〜49歳)
②宮下聡記615(220、145、250)
▽同M2(50〜59歳)
①小田川洋司600(240、130、230)

小田川洋司(前列右)、野原祥孝(同左)と県パワーリフティング協会の比屋定英信副会長(同中央)、後列左から系列真一副理事長、藤田万事務局長(7日、琉球新報社)



■ 安居選手のアジアベンチ報告

富山県パワーリフティング協会

中村一生

平成28年11月2日

先月、ウズベキスタンで開催されたアジアベンチプレス大会で優勝した安居選手とともに、10月31日に富山県庁や関係先を訪問して優勝報告をしてきました。そして、このことが、11月1日付の地元新聞の朝刊に掲載されました。

10月14日（金）～20日（木）、ウズベキスタン共和国のタシケント市で開催されたアジアベンチプレス選手権大会に富山県パワーリフティング協会の安居民雄選手（所属：西部組）が出場し、マスターズIV（70歳代の部）74kg級で見事1位金メダルに輝きました。この大会2年ぶり2回目の優勝を果たした上、当該部門でベストリフター賞を獲得しました。

安居選手は、10月31日に富山県庁を訪問し、教育・スポーツ政策監に大会の様、今後の抱負等について説明と報告をしてきました。その他、富山県体育協会と地元の新聞社に足を運び、有償の挨拶をしてきました。新聞社での面談の様子が11月1日の朝刊に掲載されました。尚、訪問先へは富山県協会の中村一生参与が同行しました。



2016年(平成28年)11月1日(朝刊)

